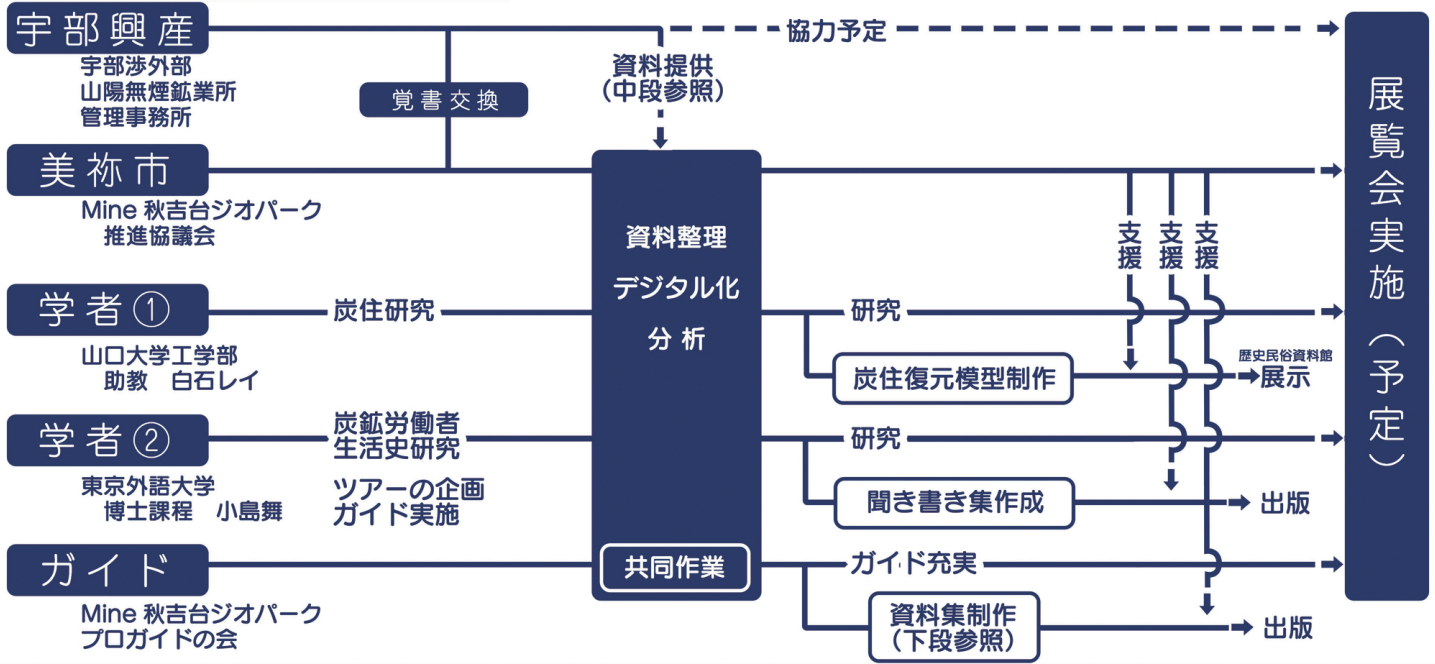


・大嶺炭田の資料活用に関わる 産官学民の協同作業の成果と副産物 ーあるいはガイドが伝えたい2つの年表ー

Mine 秋吉台ジオパーク
認定ジオガイド：植崎知行

産官学民協同の全体像

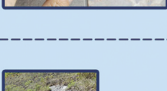
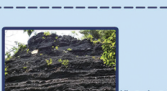
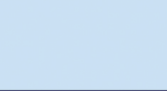
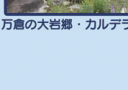


宇部興産資料とは ... 100年の炭鉱史が残る！

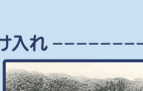
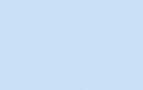
大嶺炭田の無煙炭は明治 10 年ごろ発見され、当初は石灰窯や銅の精錬などに使われていた。明治 30 年代になって、煙を出さないという性質から、海軍の軍艦の燃料として注目を集めた。1904 (明治 37) 年に海軍に買収され、海軍直営の鉱山として繁栄した。その後、民営化されたが、戦争中の一時期を除いて、日本における屈指の無煙炭炭田として生産を続け、昭和 40 年代に最盛期を迎え、その直後に閉山した。炭田の夾炭層は上部三畳紀の美祢層群で、露天掘りの現場などから多くの動植物化石が発見されたことでも知られている。宇部興産は、海軍から払い下げられ民営化した山陽無煙が周辺の炭鉱を吸収し、大嶺炭田の多くを所有した会社の経営、1942 (昭和 17) 年から携わった。同社には海軍の買収時の書類をはじめ、各種契約書、炭住の建設や解体、探鉱のための地質柱状図、坑道図、さらに折に触れての記念写真、スナップ写真など膨大な資料が残されている。経年劣化も見られるそれら資料のうち、必要とされるものをデジタル化し、アーカイブとすることで、次代に残す作業を行っている。

ガイド資料ラフコンテ 「ガイドが伝えたい2つの年表」

美祢層群の時代

350Ma	「秋吉火山」爆発 石灰岩の成長開始		
300Ma	石灰岩の発達		
250Ma	付加		
245Ma	石灰岩、海盆へ浮上		
240Ma	浮上した石灰岩上に 厚保層群が堆積		
230Ma	美祢層群の堆積		
100Ma	白亜紀の火山活動		
50Ma	古第三紀の炭田		
10Ma	日本列島の分離		

戦争と大嶺炭田

1877 年頃 (明治 10 年)	無煙炭の発見		当初は肥料用の 生石灰焼成が中心
1887 年頃 (明治 20 年)	石灰窯の利用		
1894 年 (明治 27 年)	日清戦争 1987 年：炭沢らの炭鉱買収		
1904 年 (明治 37 年)	日露戦争 海軍による炭鉱買収		
1914 年 (明治 47 年)	鉱山の払い下げ→民需に切り替え		赤レンガ・電気、 文化ショック
1937 年 (昭和 12 年)	日中戦争		運搬系統図
1939 年 (昭和 14 年)	斜坑の掘削開始		
1941 年 (昭和 16 年)	太平洋戦争		
1942 年 (昭和 17 年)	英米兵捕虜の受け入れ		収容所長は戦犯で死刑 朝鮮労働者強制も...
1945 年 (昭和 20 年)	敗戦、引き上げ		
1950 年 (昭和 25 年)	朝鮮戦争→復興 炭鉱人気が徐々に低下		炭鉱労働者人気
1970 年 (昭和 45 年)	山陽無煙閉山		
1997 年 (平成 9 年)	大嶺線廃止		往時の大嶺炭田